

令和2年度 第2回 中部地区需給情報連絡協議会 議事概要

1. 日時：令和2年12月23日13:30～16:00
2. 場所：愛知県名古屋市 キャッスルプラザ

3. 概要

各議題について、出された意見等は以下のとおり。

(1) 議題1：木材需給動向について

- ・原木生産から別作業にシフトがあった。材を出せと言われても急には出せない。
- ・輸入材が入ってこなくなる見通しだが、原木・製品ともに四国・九州からもどろどろ入れないと回らない。国産材が回ってくるようならPRしていきたい。ローコストビルダーは脅威。県によっては受注の4割を占める。地域工務店が疲弊。
- ・地域でどう生き残るか、サプライチェーンマネジメント（SCM）で検討中。
- ・状況は良く、地元で集中してA材を流した。合板向け等の引き合いもあるが、安ければ売らない。
- ・お祭り・集会がなくその需要が減少、社寺仏閣も新規案件がなく、大径材が値下がり。記念市は値下がり、平市は値上りで、平均単価は変わらず。
- ・通常、5,000～6,000m³/月の生産だが、3,500m³程度。原木不足で困っている。
- ・合板が売れないのが問題。B,C材が売れないと、A材も出てこない。原木を高く買っているが、山側はA材出荷が減ったため、平均単価が下がったと認識し、意識のずれがある。

(2) 議題2：需給ギャップの解消について

- ・コロナで右往左往したが、もし3か月先が見通せたら、大したことはなかった。森林組合は作業の変更ができるが、素材生産事業者は、作業員の首を切ったら人が戻ってこなくなるので大変。
- ・一言でいえば情報がなかった。特に縦の情報が重要。
- ・川上と川下の交流を実施。川上が建築の苦勞を知ることも重要。また、建築が川上の作業を見て、材が安いことへの疑問が出た。
- ・輸入材が2022年までは減少して厳しい。川上はそれをわきまえてやってほしい。多少の値上がりは覚悟。改革の最後のチャンス。また、外国人労働者も問題。コロナで3年間研修ができない。プレカットのCAD技術者が3年でゼロになる。
- ・サプライチェーンのLINEグループもあるが、なかなか情報は出ない。具体的に仕事を作りながら動く必要。

(3) 座長総括

- ・川上から川下の情報はしっかりと共有しながら連携していかないと、林業先進国にはいつまでも追いつけない。自分たちの資源は自分たちで管理する必要。
- ・第1回の総括では、コロナによる需要低迷を踏まえ、需給情報連絡協議会を地域のドライビングフォースとして強化することが重要と書いた。情報交換の場・政策の意見収集の場から一歩前進し、地域問題の解決に主体的に向き合う

組織になることが必要。今まで国が協議会をセッティングしていたが、我々が主体的に動く時なのではないか。

- 構成員から、製品ストックヤードがあれば、今回の木材の動きを吸収できたのではないかとの意見があった。これと合わせて、地域の川上から川下の連携を作っていく必要。

以 上